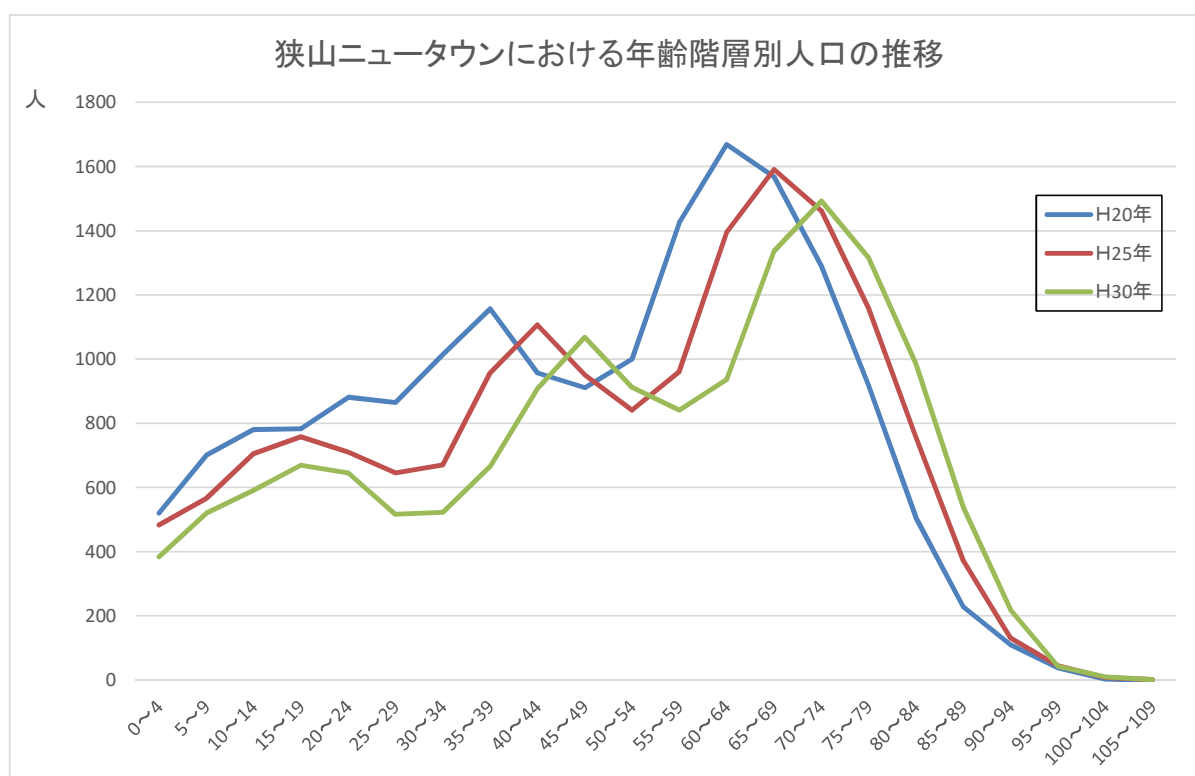


狭山ニュータウンの人口動向の分析

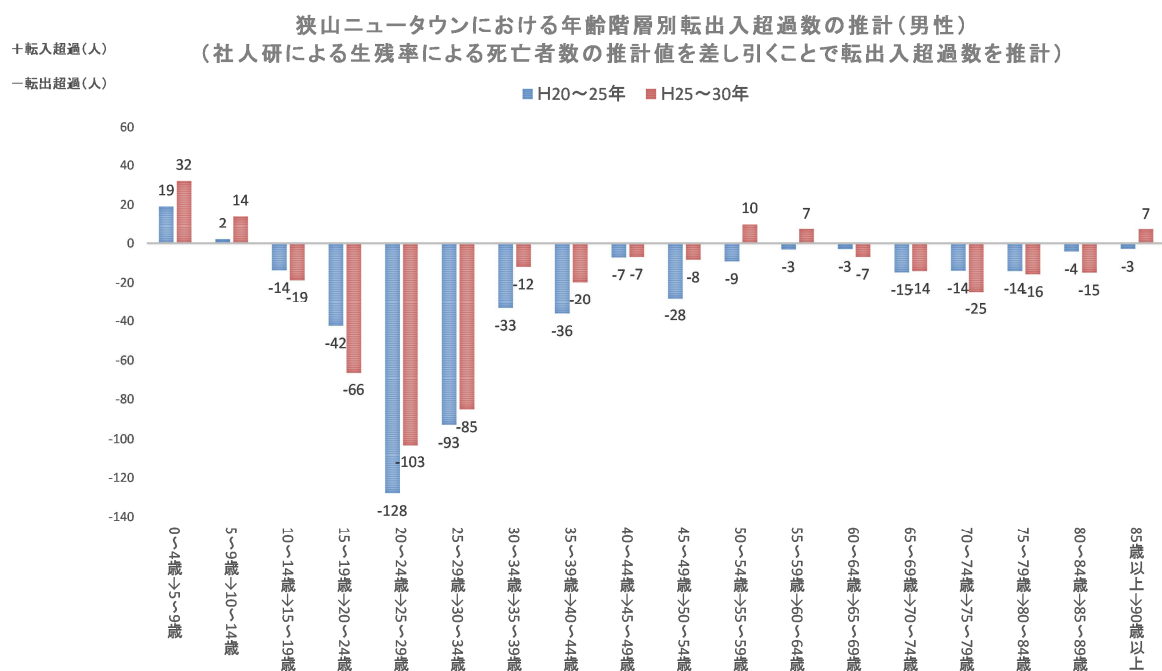
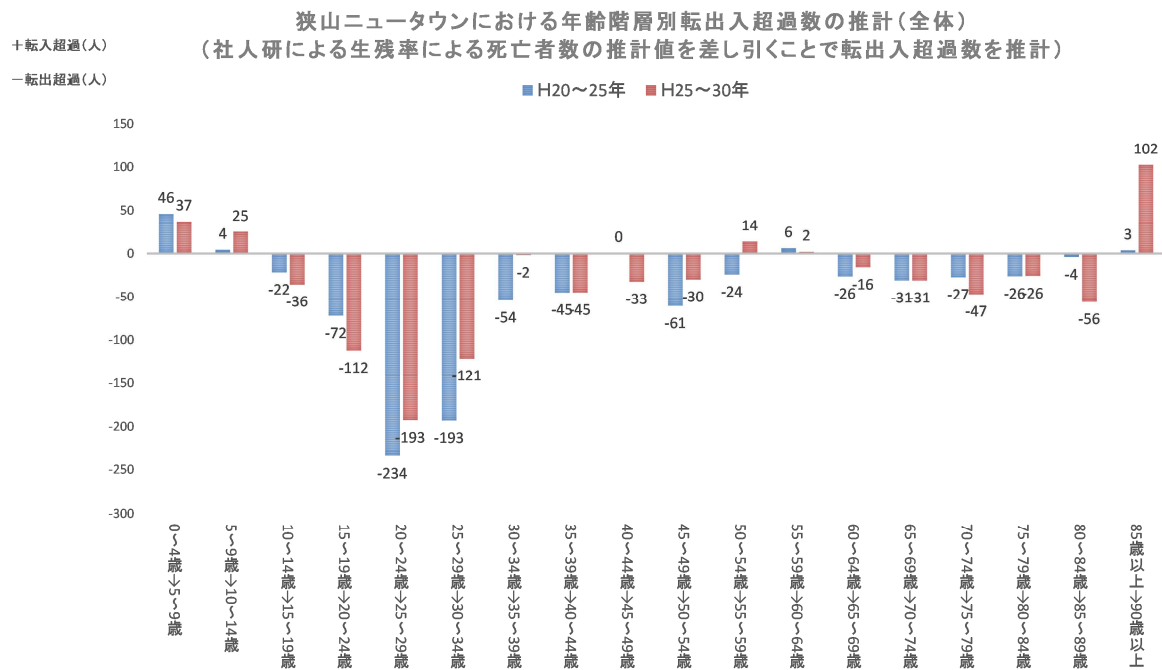
1 狭山ニュータウンにおける年齢階層別人口の推移

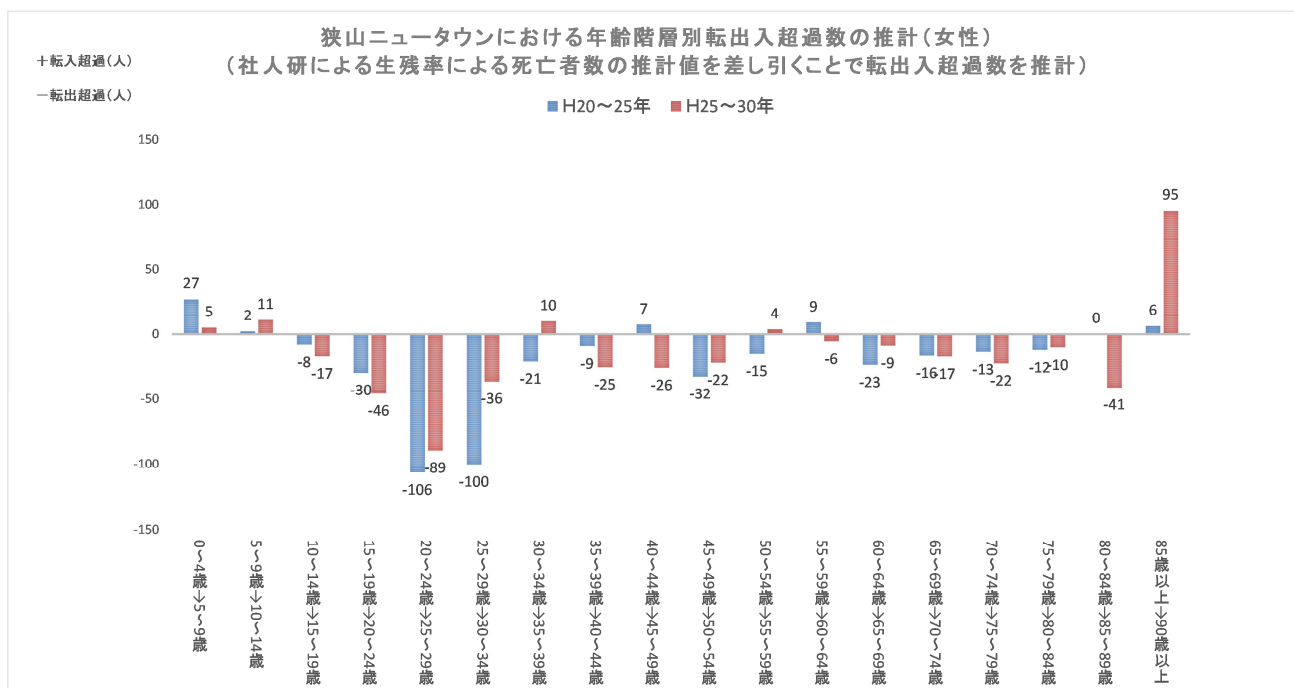
- 年齢階層別の人口を見ると、平成30年時点で70歳代前半の世代（団塊の世代）に人口のピークがあり、経年的に減少傾向がみられる。その世代の子供世代（団塊ジュニア）が40歳代後半となっており、この年代も減少傾向がみられる。



2 狭山ニュータウンにおける年齢階層別の転出入の推計

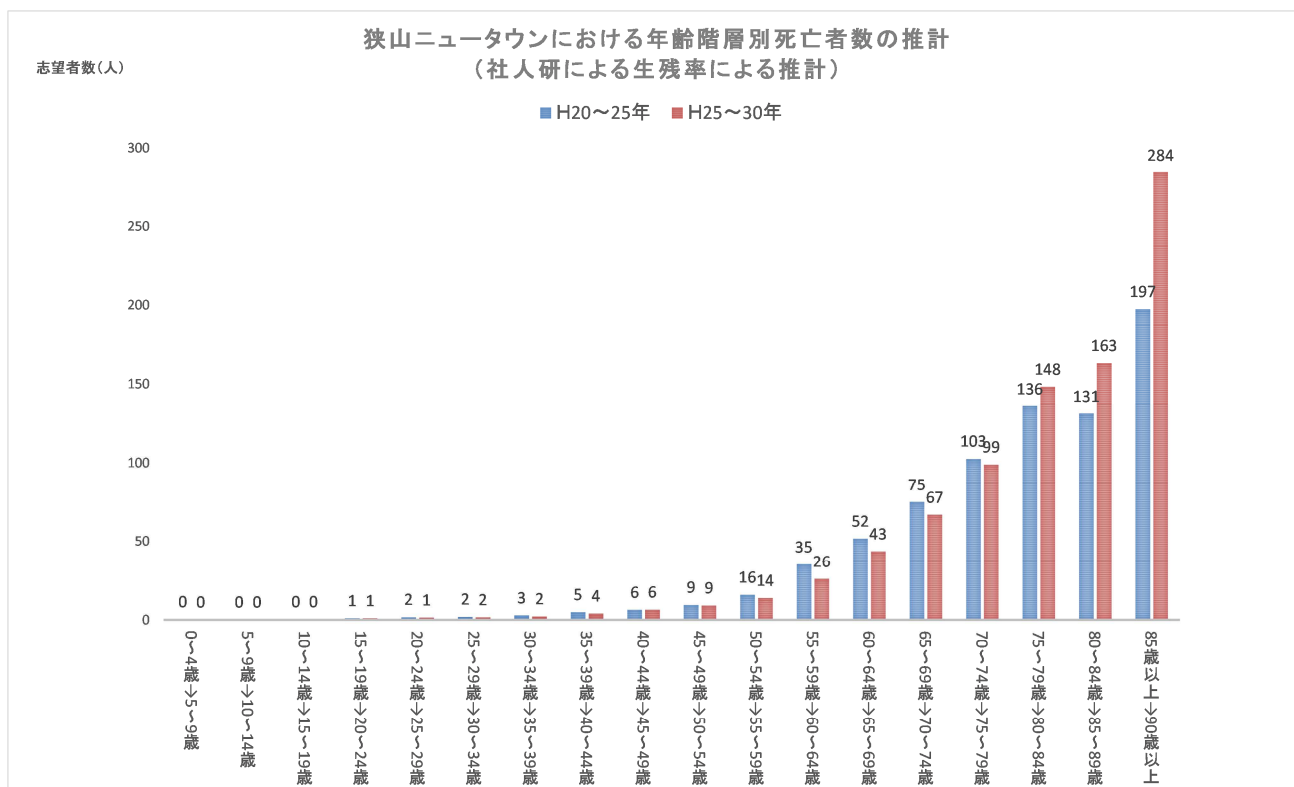
- 実際の年齢別人口の推移と社人研による生残率から、年齢階層別の人口移動（転出入）の動向を推計すると、20歳代において大幅な転出超過となっており、就職や結婚による転出が想定される。平成20年からの5年間よりも直近5年間の方が転出超過の数が若干減少している。
- 男女別に傾向を見ると、20歳代から30歳代になるところで転出超過人口が減少しており、結婚や第1子誕生のタイミングで住宅の取得による「転入」が増加していることが想定される。その影響により、0歳～10歳付近の子ども転入超過がみられる。





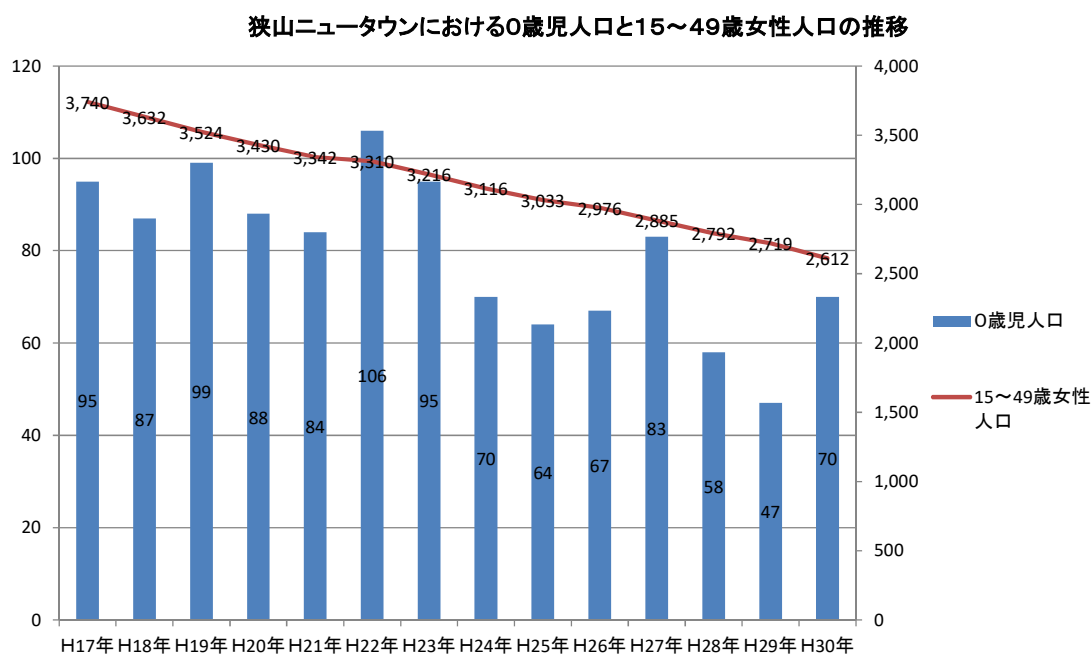
3 狭山ニュータウンにおける死亡者数の推移

- ・狭山ニュータウンにおける死亡者数を年齢別人口動向をベースに社人研による生残率で推計すると、高齢化に伴って、75歳以上の年齢層における死亡者数が急増しており、今後、さらなる高齢化の進展により死亡者数が増加することが推察される。



4 狭山ニュータウンにおける出生動向の推計（0歳児人口の動向による推計）

- 狭山ニュータウンにおける0歳児人口を経年的にみると、増減はありつつも、減少傾向にあるといえることができる。
- 一方で子供を産む比率の高い出産適齢期の女性人口の推移をみると、経年的に減少してきており、出生数は減少してきていると推察できる。



5 将来推計人口

- ・1～4の人口動向から将来推計人口に必要な以下の数値を設定し、将来推計人口を算定した。

生残率

	男	女
0～4歳→5～9歳	0.99942	0.99955
5～9歳→10～14歳	0.99967	0.99979
10～14歳→15～19歳	0.99933	0.99963
15～19歳→20～24歳	0.99833	0.99911
20～24歳→25～29歳	0.99762	0.99870
25～29歳→30～34歳	0.99726	0.99840
30～34歳→35～39歳	0.99658	0.99795
35～39歳→40～44歳	0.99491	0.99701
40～44歳→45～49歳	0.99181	0.99554
45～49歳→50～54歳	0.98674	0.99317
50～54歳→55～59歳	0.97912	0.98976
55～59歳→60～64歳	0.96611	0.98544
60～64歳→65～69歳	0.95710	0.98184
65～69歳→70～74歳	0.93700	0.97132
70～74歳→75～79歳	0.90073	0.95030
75～79歳→80～84歳	0.81912	0.90008
80～84歳→85～89歳	0.67434	0.81412
85歳以上→90歳以上	0.40583	0.52537

移動率

	男	女
0～4歳→5～9歳	0.13617	0.02069
5～9歳→10～14歳	0.04795	0.04070
10～14歳→15～19歳	-0.05124	-0.04974
15～19歳→20～24歳	-0.16710	-0.12645
20～24歳→25～29歳	-0.29820	-0.24577
25～29歳→30～34歳	-0.25321	-0.11739
30～34歳→35～39歳	-0.03772	0.02855
35～39歳→40～44歳	-0.04491	-0.04867
40～44歳→45～49歳	-0.01368	-0.04253
45～49歳→50～54歳	-0.01953	-0.04130
50～54歳→55～59歳	0.02607	0.00817
55～59歳→60～64歳	0.01734	-0.01025
60～64歳→65～69歳	-0.01129	-0.01108
65～69歳→70～74歳	-0.02070	-0.01868
70～74歳→75～79歳	-0.03716	-0.02798
75～79歳→80～84歳	-0.02859	-0.01646
80～84歳→85～89歳	-0.04482	-0.09642
85歳以上→90歳以上	0.05371	-0.04103

※移動率のうち、「85歳以上→90歳以上」の女性の数値は、特異値が出たため、H20～25年の実績値に入れ替える補正を行った。

15～49歳女性人口に対する出生率

H26～30平均出生率	0.023241
出生時男女比(※)	105

※全国平均

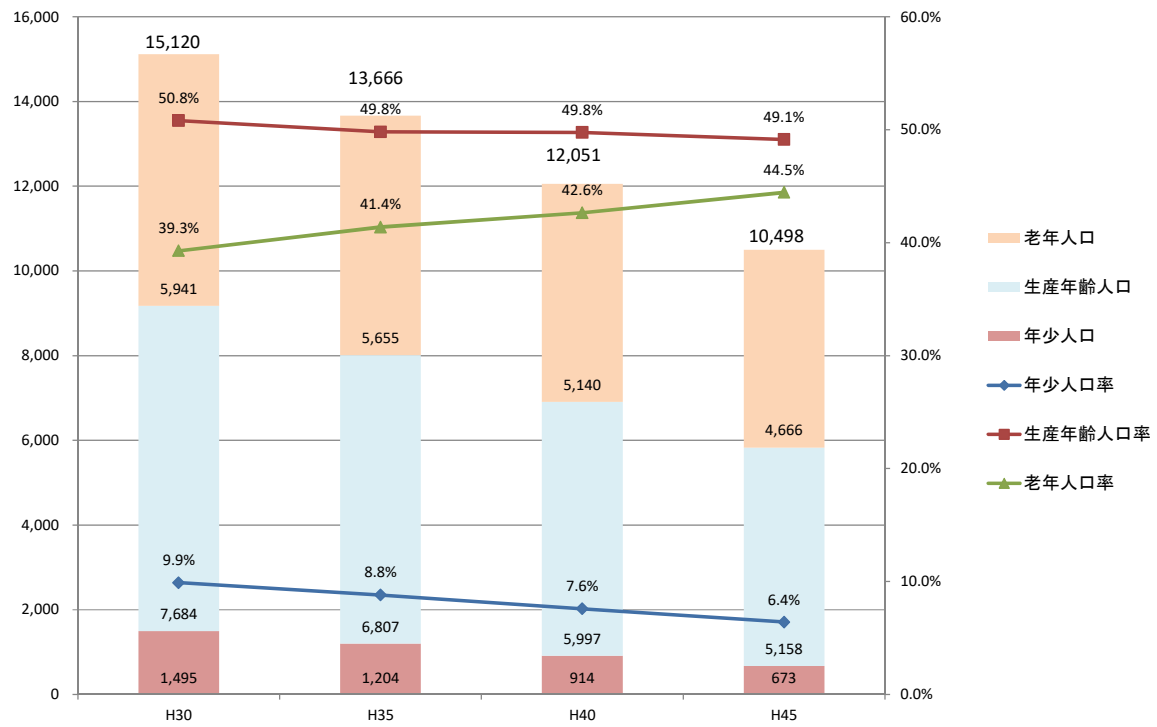
【将来推計人口算定結果】

	H30	H35	H40	H45
0～4	384	246	199	169
5～9	520	415	277	215
10～14	591	543	438	289
15～19	669	561	513	415
20～24	645	569	461	437
25～29	516	468	393	335
30～34	522	421	374	320
35～39	666	519	419	372
40～44	908	632	486	397
45～49	1,068	876	602	468
50～54	912	1,024	834	577
55～59	841	913	1,023	835
60～64	937	823	894	1,002
65～69	1,336	899	788	858
70～74	1,493	1,252	834	738
75～79	1,316	1,340	1,116	748
80～84	985	1,109	1,134	944
85歳以上	811	1,054	1,267	1,379
合計	15,120	13,666	12,051	10,498

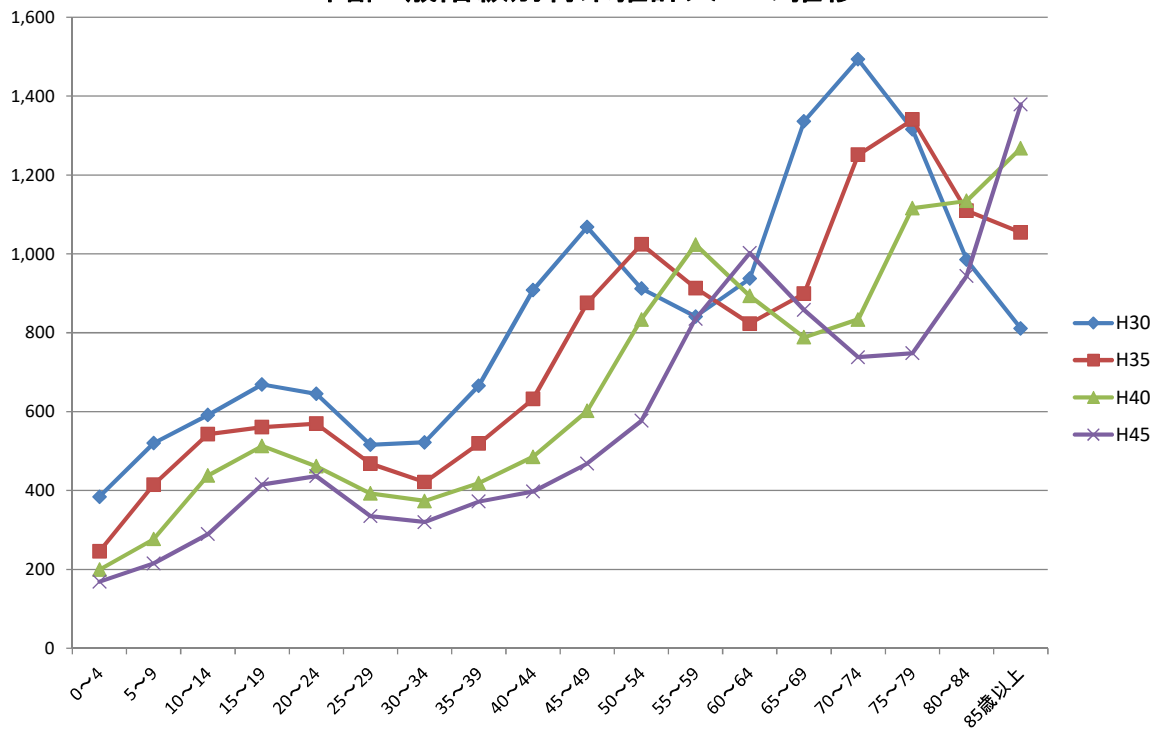
年少人口	1,495	1,204	914	673
生産年齢人口	7,684	6,807	5,997	5,158
老年人口	5,941	5,655	5,140	4,666
年少人口率	9.9%	8.8%	7.6%	6.4%
生産年齢人口率	50.8%	49.8%	49.8%	49.1%
老年人口率	39.3%	41.4%	42.6%	44.5%

年齢階層別将来推計人口と比率

(人)

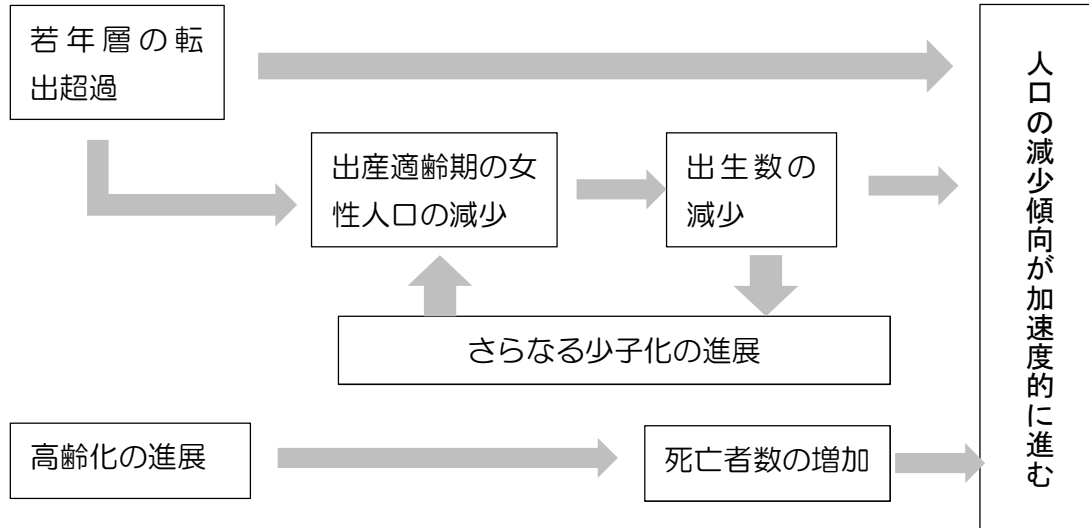


年齢5歳階級別将来推計人口の推移



6 人口動向・将来推計人口のまとめ

- このまま推移すると、人口の減少傾向が加速度的に進む構造となっている。



- 人口を持続的に確保するためには、若年層の転入促進により、出生数の確保につながる対策をとることが求められる。
- 高齢化に伴う死亡者増加は、相続を契機とした空家の発生につながる。空家の流通促進策によって若年層の転入を促進することで、人口の減少傾向を抑制することが考えられる。

